

平成 28 年度 国立大学法人岩手大学 卒業式 式辞

例年に比べ暖かい冬が終わりを告げ、桜の待ち遠しい季節を迎えました。本日、多数のご来賓の皆様、保護者の皆様をお迎えし、平成 28 年度岩手大学卒業式を挙げていただけますことは、本学にとりまして大きな喜びであります。

1,103 名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。また 4 名の外国人留学生の皆さんには、日本人学生と異なるご苦勞もあつたこととお察しします。本当におめでとうございます。

また、この日を心待ちにして来られた御家族の皆様にもお祝いを申し上げますとともに、皆様の御支援に心から感謝と敬意を表します。

さて、皆さんへのはなむけの言葉として様々なことを申し上げたいところですが、焦点を絞って話したいと思います。それは

「タフな人間になれ！」

ということです。

ではタフな人間とは？精神的にも肉体的にもタフな人間とは？

強い人間、我慢強い人間、信念の強い人間、へこたれない人間、様々な性格が連想されましょう。ダーウィンの進化論的に言えば“強い生物が生き残るのではなく、環境適応力のある生物が生き残る”のです。しかし、現存の生物が環境変化に対し自律的に進化したかと言えば、他律的、突然変異的に、例えば DNA が変化した生物が偶然にも環境に適したからといえます。では私たちも突然変異をじっと待つのか偶然性を待つのかということになりますが、現代に生きる私たちは自律的に適応性を高めていかなければいけませんし、できると思います。

皆さんの先輩に本多有香さんという農学部出身の OG がいます。いま彼女はカナダに住んで犬ぞりレースに参加するために、電気もない、水道もないところで犬 20 数頭と暮らしています。彼女の著書「犬と走る」を読んだとき、今時このような人がいるのか、しかも岩手大学卒業生が、と非常なる驚きを覚えました。このような人生を送ることをすすめているわけではありませんが、彼女の夢に向かっての、まさに精神的、肉体的なタフさを見習っていただきたいと思います。

震災から 6 年が経ちました。皆さんは高校生の時に遭遇したわけですが、復興の目標は人・街・仕事での” Build back better” であり、現在平均で 80%程度が復興したと言われて

おります。我々岩手大学も三陸復興推進機構を中心に復興活動を行ってきましたし、現在も継続しております。皆さんの多くも活動に参加したと思います。水産業の再生という点からいえば、本学は歴史も伝統もない中で釜石に三陸水産研究センターを、また農学部に水産コースを設置し新たな水産業のあり方を被災漁業関係者と一緒に模索しております。その中で、被災された方々を見ていますと個人差があり、レジリエント、言わばしなやかな適応力を備えたタフな人間ほど早く目標を設定し、再建に積極的であると感じています。

進学する人を除けば、多くの方は社会に出るわけでありますが、それぞれ夢を持っていると思います。しかし、小学校、中学校、高校、大学入学時、そして現在と成長に伴いその夢も変わってきたのではないのでしょうか。ドリカム即ち Dreams come true を望んだとしても多くの人にとってはなかなか “Dream does not come true.” かもしれません。最近の統計では新卒者の 3 割が 3 年以内で離職するという結果があります。厳しい環境の中でもしなやかに、そしてタフに生きてほしいというのが私の今日の趣旨です。歩いていけば必ず壁、障害物が出現します。正面突破を図るか、右あるいは左に進路を変えるか、あるいはとまってしまうか、様々な選択肢があります。しかし、一つの道を選んだからには後悔せずに次の夢の実現のためにタフに生きてほしいと思います。

最後になりますが、千年に一度の大震災に遭遇した皆さんはその復興過程を間近に見て人生を考えてきたはずであり、この学生生活こそが皆さんにとってかけがえのない財産です。私たちは自信を持って皆さんを社会に送り出します。岩手大学に学んだという誇りをもって、頑張ってください。皆さんの今後一層の活躍を期待して、学長式辞といたします。

平成 29 年 3 月 23 日

国立大学法人 岩手大学長 岩淵 明